



東日本大震災から学ぶ

必要な障害者支援

障害者社会参加推進センター講演会

七月十五日(日)午後二時から、小倉リーセントホテル一階ホールで、(公財)北九州市身体障害者福祉協会(以下身障協会)主催の福祉講演会が行われました。

講師として、(財)仙台市障害者福祉協会会長の阿部一彦氏を招いて行われました。参加者は、約七〇名の参加があり、「さわやか」からは高原が参加しました。

公益財団法人として

新しい第一歩を歩み出す

初めに、(公財)身障協会の柴田泰博理事長より「四月一日に公益財団法人に認定され、新しい第一歩を歩みだしました。記憶に新しい東日本大震災より、一年数ヶ月が過ぎ、高齢者・障害者などの災害弱者の支援が注目を集めています。」



財団法人仙台市障害者福祉協会
会長 阿部 一彦氏

しかし、援護者の把握が出来ていません。それは個人情報保護法という法律の壁によってなかなか進まないのが現状です。阿部氏より東日本大震災の支援について様々な経験に基づき話をしたいとあります」と挨拶がありました。

阿部氏は、東日本大震災が起こった三月十一日は、国会で「障害者基本法」の改正案の骨格を承認される日でしたので、東京にいま

した。仙台市にどうやって帰ろうか思案しました。幸い伊丹空港から山形空港までの切符が取れ、山形空港からは、仙台市福祉協会と山形県の身障協会は「災害時相互応援協定」を結んでいたもので、物資を輸送する車に同乗して仙台市に帰ることが出来ました。

震災後、仙台市障害者福祉協会は会員名簿があったので安否確認を行うと共に、福祉避難所を開設しました。

福祉避難所を開設

二十四時間体制の避難所運営は人数不足のために、福岡市の身障協会や日身連の人的支援を受けられ助けられました。やはり非常時に他団体の支援は大変心強いと話され、また災害時に福

祉避難所を開設するには専門ボランティアの必要性を感じました。

専門ボランティアとは、「手話・要約筆記・運転・点訳・朗読・ガイドヘルパーなどを言います。

また、一九九五年に『阪神淡路大震災』が起き、その時の行政は、責任があり信頼できる団体には、障害者の情報を開示していました。

今回の東日本大震災後の時は、二〇〇五年に施行された「個人情報保護法」による法律の壁により障害者の情報がまったくない状態で、障害者の安否確認が出来ませんでした。やはり、障害者団体だけの取り組みには限界があることを痛感しました。

「つながり・絆・支えあい」が大事なことは……

震災後、障害者基本法第二十六条が追加で施行されました。(右下参照)

震災前は、無縁社会と言われ、社会にクローズアップされていましたが、震災を体験したことにより、やはり自分たちが住んでいる地域の住人たちのつながりが必要で、「つながり・絆・支えあい」が大事なことは無いでしょうか。障害者

障害者基本法(抜粋)
第二十六条 防災及び防犯
国及び地方自治体は、障害者が地域社会において安全かつ安心して生活を営むことができるようにするため、障害者の性別、年齢、障害の状態及び生活の実態に応じて、防災及び防犯に関し必要な施策を講じなければならない。

には、嗜好用品の配給や水汲みの情報などなかなか入ってきません。そこでご近所の方の協力が必要となります。

誰もが暮らしやすい 共生社会の実現

今回の震災を機に仙台市障害者福祉協会の会員の方々は、会員になってよかったとの声が寄せられています。これからは、会員になっていない障害者に、つながりの輪を広げて、互いに支え合う団体組織の構築が求められており、今回の体験によって失いかけていた絆の素晴らしさを確認し、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に結び付けたいと話されました。

その後質疑応答があり、時間終了のぎりぎりまで、質問に答えていただき、午後四時過ぎに講演会は終了となりました。



残暑見舞い申し上げます

立秋とは名ばかりで、まだまだ厳しい暑さが続いておりますが、お元気でお過ごしでしょうか。季節の変わり目、どうかくれぐれもお体ご自愛くださいませすようお祈り申し上げます。
平成二十四年 晩夏

「さわやか」事務局一同

本当の自分らしさとは何か

NPO活動発表会に参加

七月二十五日（水）午後六時三〇分より、北九州市立男女共同参画センター（ムーブ）で、「NPO活動発表会〜エニアグラムで築く豊かな人間関係〜市民活動に役立つ自分探しの旅」が、北九州市市民活動サポートセンター主催で行われました。

参加者は、約二十名で、「さわやか」から貞谷が参加しました。

今回、なぜ参加したかという毎月サポートセンターの日はあり、その中でNPO活動発表会に興味があり、参加してきました。

初めに北九州市市民活動サポートセンターの田中氏の司会で始まり、スピーカ―の北九州エニアグラムを学ぶ会 佐藤伸子氏より「北九州市で知った仲間と活動していきたいので、エニアグラムとは何かを知っていただき、興味がある方と一



緒に次へのステップに進みたいと思います」と挨拶がありました。

エニアグラムとは何か

続いて、エニアグラムとは何か？という基本をワークショップで学びました。

エニアグラムという言葉はギリシャ語で、エニアは「9」、グラムは「図」を意味します。エニアグラムとは、自己

雷注意報に耳を傾けよう！

全国各地で雷による死亡事故も起こっています。また、福岡県内で、連日のように雷注意報が発令されています。皆さんも天気予報に耳を傾けましょう。

雷とは

電圧が発生した雲または大地などの間に発生する光と音を伴う大規模な放電現象のことです。

雷から身を守るには

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、落雷が差し迫っています。

こうすることで自分の行動パターンやこだわりを知ることが出来ます。

「絵」を通して自分の心の動きに気づく

次に佐藤氏から課題を出され、絵を描きました。

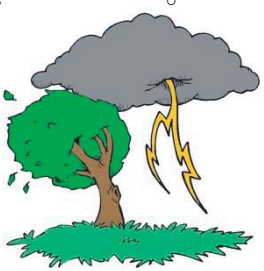
文字や言葉では表現できない自分の内面を表すことができ、「絵」を通して自分の心の動きに気づくことができるからです。

最後に佐藤氏より「詳しい事が知りたい方は、『特定非営利活動法人 日本エニアグラム学会』のホームページをご覧下さい」と話され、研修は午後七時四十分を終了しました。

雷に遭遇した場合は

安全な空間への避難

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、



これを通って落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難して下さい。

鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れれば更に安全です。

安全な空間がない場合の対応

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを四十五度以上の角度で見上げ、4m以上離れた範囲（保護範囲）に退避します。

高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹枝、葉から2m以上は離れてください。

避難の解除

雷を感じし、落雷を知らせる器具がある場合は、雷鳴が聞こえなくなっても、雷の危険が去ったことを確認してから、避難場所からの移動を開始しましょう。

器具がない場合は、雷鳴が聞こえなくなっても、二十分以上経過してから、避難場所からの移動を開始しましょう。

（インターネットより抜粋）